

■ 発行日：2025年9月30日
■ 発行者：栃木県中小企業家同友会
〒321-0968 栃木県宇都宮市中今泉2-3-13
TEL 028-612-3826 FAX 028-612-3827
E-mail：t-doyu@ninus.ocn.ne.jp
URL：http://www.tochigi.doyu.jp/



■ 企画編集：広報委員会 ■ 印刷：有限会社 赤札堂印刷所

様

News Topic 01

全国のNEWS 第28回女性経営者全国交流会2025 IN 東京

気づきと学びの交流会：初めての全国行事で得たもの

新宿の京王プラザホテルにて、2025年9月4日～5日に開催された「第28回女性経営者全国交流会2025 IN 東京」は、私にとって通常の例会とは違う、多くの気づきを与えてくれる経験となりました。今年4月から東京同友会文京支部にも所属させていただき今回は、文京支部から参加の機会をいただきました。

女性経営者との交流を通じて、自分自身のキャリアやライフプラン、そして女性ならではの視点を経営にどう活かすかというヒントを得たいと思っていたので、この交流会は、まさにその思いを実現させていただけるものでした。

準備から得た学びと気づき「自ら行動する」

交流会の準備委員会は5月から7月にかけて月に一度開催され、私は一度だけ参加できる機会がありました。

そこで、女性部の白川部長や実行委員の皆さんが作成された「東京グラデーション宣言」について、グループ討論で意見を交わしました（別ページ参照）。宣言の一部には、「同友会役員比率30%を目指す」など、女性が活躍する場を増やすという方針が盛り込まれていました。このことは、私は女性経営者自身が、自ら意識して行動することの重要性を改めて考えるきっかけとなりました。

この自らが「変化する対応力」を身につける・実践の機会・先輩方の話を聴く機会などを通じて、新たな視点を取り入れることで、自社だけでは気づけなかった課題や可能性を発見できるはずだと思い行動しようと思いました。

また、11ある分科会すべてでグループ長も含め女性



で実行するという目標をもって、グループ長研修や支部の例会で女性がグループ長をやるなど、さまざまな準備をしてきました。このような話を準備委員会を通

して聴くことで、自分自身の意識改革と行動が不可欠であると再認識する貴重な機会でした。

心温まるサポートと交流「一人ではしない行動をする機会」

交流会当日は「歓迎誘導部門」として、受付で参加者の皆様に冷たいおしぼりをお配りしました。慣れない役割でしたが、文京支部の株式会社本の泉社の浜田さんと一緒だったので行動することができました。

特に懇親会では、文京支部の大谷社会保険労務士オフィスの大谷さんが、ずっと一緒にいてくださり、一人になることなく有意義に楽しみながら時間を過ごしました。

分科会での貴重な体験「全国に会員さんがいる実感」

分科会では、群馬同友会・赤城フーズ株式会社の遠山昌子社長のご講演を聴かせていただきました。元宝塚歌劇団という異色の経歴をお持ちの遠山社長のお話は、大変魅力的でした。参加者が200名を超える分科会で、直接お話する機会はなかったものの、グループ討論のテーマは、自社を新たな視点で見つめ直すきっかけとなり、非常に有意義な時間となりました。

最後に、行動するという面で「第28回女性経営者全国交流会2025 IN 東京」後の、9月の栃木同友会県央支部の例会で、司会とグループ長を務めさせていただきました。以前なら、男性経営者ばかりに交じっての司会などは「自分にどこか制御をしてしまっている」ことをはっきり感じていましたが、今回は「行動する」という思いがあったので、まずやってみようと思い制御を少し減らすことができましたと思います。自己評価は以前とは全然違うと思っています。まだまだ、満足できる成果ではありませんが一歩行動することができました。

長い期間準備してくださった、東京同友会女性部のみなさんほか関係者のみなさんありがとうございました。
[文責：栃木同友会県央支部・東京同友会文京支部 有限会社 芯和 高橋和子]

GRADATION!

アナタが主役です！

東京グラデーション宣言

私たちは今、長い間当たり前とされてきた価値観を見直し、性別や年齢、出身、肩書きなどで分け隔てられることなく、誰もが自らの可能性を信じ、生き生きと自分らしく暮らせる、そんな時代への転換点に居ます。こうした中で、私たち中小企業家同友会は、女性が持てる力を存分に発揮し、存在感を高めていく事こそが、社会を変え、経済を活性化させる一つの大きな力になると確信し、その牽引役となるべく、次の3つの目標を掲げ、行動します。

① 競争から共創へ

皆が同じ基準や条件のもとに権利を奪い合うのではなく、まずは互いの「違いを受け入れ、違うからこそ築ける、支え合い、高めあう関係性を共に創ります。

② 女性が変わる、男性も変わる

女性も男性も、共に学び、成長していく事で、アンコンシャスバイアスや、性別の差による役割の固定化を解消するなど、時代の価値観を常にアップデートします。

③ 胸を張って、一步前へ！

中小企業家同友会の女性役員比率30%を目指すとともに、支部や例会の運営など様々な場面において女性が活躍する場を意識的に増やし、意思決定の場に多様な視点を持ち込みます。

誰もが自らを誇り、自分の色で輝くとともに、相手の色も尊重し、影響し合いながら、きれいなグラデーションを描くように新しい地図を描いていく。そんな世界への扉が、もう開き始めています。

この大きくて重い扉を、長い年月をかけて少しずつこじ開けてきてくれたのは、我々の先輩たちです。高い壁に阻まれ、見えない力に押し返されながらも、声を上げ、前を向いて歩み続けてきてくれました。

そして、次は私たちの番です！多様な人々が行き交い、先進性と伝統が交差する街、東京。

時代のターニングポイントを迎えつつある今、今日この場所に、全国の仲間をお迎えして、女性経営者全国交流会が開催された事に、我々は大きな意味を感じています。

この東京から、日本中、そして世界中へ！

先人たちの思いを胸に、ここに集う私たちが先導となってその一步を踏み出し、明るい未来への扉を開いていく事を誓い、ここに宣言します。

一般社団法人 東京中小企業家同友会
第26回 女性経営者全国交流会実行委員会

実在する事業の活性化案をみんなで考える

8月20日(水)県南支部例会を開催しました。

会場はいつもの「ゆめまち」。お盆明けという時期も影響したようで、参加者は5名と少なめでした。

今回のテーマは「実在する事業の活性化案をみんなで考える」。

宇都宮大学の学生団体と栃木同友会が共同運営する「インターンシップマッチング事業」を題材に、事業概要の説明後、「率直な感想」「成立要件は何か?」という問いをもとに意見交換しました。

インターンシップとは、学生が企業で職業体験をする制度。企業と学生が本採用前にお互いを知ること、採用時のミスマッチを防ぐことができます。通常は大企業が主ですが、本事業は中小企業とのマッチングを目指しています。

採用活動の過熱から学生をまもるために行政がガイドラインを出しているのですが、複雑なために学生のニーズからズレてしまい、それが動機となり学生主導のライトなインターンシップマッチングを指向したのが本事業です。

発起人が「地域デザイン科学部」の学生で、地方の衰退への問題意識から「地元の優良中小企業も選択肢に」との思いも込めているために、栃木同友会にパートナーとして声がかかり協力しています。

しかし、「新卒大学生×中小企業」という組み合わせはニーズが少なく、過去2回の実績では参加企業が8社→6社と減少。3回目はさらに減って中止に。とはいえ「会員企業による大学生の新卒採用1件」という成果も残しています。

この事業は「企業」と「学生」という2つの市場を

相手にする複雑さがありますが、それぞれのニーズを捉え、コスト以上の価値を提供できれば活性化の道は見えてくる筈です。

私自身は、特殊性を一旦脇に置き、裾野を広げて市場の母数を増やすことで成功率を上げる戦略を考えました。

たとえば、トヨタ自動車の「センチュリー」は皇室や政府御用達の高級セダンですが、販売が続けられているのは、大衆車という広い土台があるからこそ。ニッチ商品でも、土台がしっかりしていれば成立するのです。

今回の例会では明確な再活性化の道筋までは立てられませんでした。鋭い意見やヒントがいくつも得られました。参加者の視点の違いが、思考の幅を広げてくれたように感じます。

「自社の商品をどう売るか?」という問いに向き合う力を養える場として、この例会が機能するように企画設計したつもりです。冒頭でも述べたとおりいつもより参加者数が伸びなかった点は、残念であると同時に「売り時」という視点を学ぶ機会となりました。

私は支部長として、「県南支部」や「例会」という“商品”をどう届けるかを日々考えています。この紙面も、会員の皆さまへの営業トークの一環です。そしてそれが、私自身の経営能力を高める学びの機会にもなっています。そしてこれは「同友会活動と自社経営は不離一体である」という言葉の、私のケースにおける実践事例だとも考えています。

[文責：タカマチ産業株式会社 代表取締役 山寄俊也(県南支部長)]

コラム

私の咳を止めた一品と、その先にあった創業の物語

数年前から、一度出始めると止まらない厄介な咳に悩まされていました。特に室内にいる時に症状が出やすく、花粉症のアレルギー体質もあって、ハウスダストが原因ではないかと考えていました。

試しに導入したのが、今回お勧めする一品、ダイキン製の空気清浄機「MCK555ABK」です。効果は絶大でした。あれほど続いていた咳がぴたりと止み、今では事務所の空気がまるで森林公園にいるかのようにおいしく感じます。

この素晴らしい効果に感動し、寄稿にあたって製造元であるダイキンについて調べてみることにしました。公式サイトで「ダイキン工業90年史」というPDFが公

開されているのを発見。400ページを超える大著のため、創業期である第一章「ダイキンの礎 町工場から大企業への躍進(1924~1945)」を読みました。

創業者の山田晃氏は小倉工業学校で機械を学び、軍の工場勤務などを経て、1924年に「合資会社大阪金属工業所」(従業員15人、資本金1万5千円)を設立。これがダイキンの始まりです。同社は急成長を遂げ、1934年に「大阪金属工業株式会社」を設立し、1941年には従業員16,000人



を超える大企業となります。

その成長は軍需に応える形でしたが、山田氏は、1935年の工場増設の増資理由書にて、「軍需品の方に全力を傾倒することは必ずしも当社の使命ではなく、工場施設は軍民両用ならしむる」と記しています。これは、戦前から「和戦両様の備え」による政策があり、戦後の民需転換への慧眼を示しております。

山田氏は、激動の時代に「技術」と技術を担う「人」

を尊重する経営スタイルで「技術のダイキン」の礎を築いたとされています。

私の事務所で空気を浄化してくれるこの機械が、創業者の理念から続く、およそ100年の歴史の結晶であると感じた時、単なる家電製品とは思えない深い感動を覚えました。優れた性能はもちろん、その背景にある物語も含めて、この一品を心からお勧めします。

事務局からのお知らせ

1. 11月に栃木同友会経営フォーラムを開催いたします。

今年の経営フォーラムは「仕事と教育をはしわたし」を考えるために、『「わからない」からはじまる「ひと」の育ち合い』と題して、都留文科大学教養学部 教授 古屋 和久氏をお招きいたします。

古屋氏は2022年定年退職を迎えるまで山梨県内の小・中学校に勤務されていた方です。これからわれわれが迎える社会人が受けている教育は私たちが受けてきた教育とはちがってきています。これからの若者たちがどんな教育を受けてきているのかを知るうえでも貴重な時間になるかと思えます。

2027年あたりから次の時代の経済ルールが始まります。AIが当たり前になり、デジタルネイティブが世の中に出てき始めている。これからの変化の時代に備え、また、新入社員問題、後継者問題また社風を考えるうえでもヒントが有るフォーラムです。

日 時：11月21日(金) 18:30～20:50

会 場：栃木県総合文化センター 第4会議室

栃木県宇都宮市本町1-8

ご興味のある方は、チラシにご記入のうえFAXをいただくか、メールにて、栃木県中小企業家同友会事務局までお申し込みください。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2. 事務局について

栃木県中小企業家同友会の事務局体制が2024年9月から変わっています。

正規事務局1名体制から、パート事務局1名体制になりました。

そのため、事務局への電話でのご連絡は、平日の月、火、木、金の10:00-14:00でお願いいたします。お昼休みはありませんので、お昼の時間帯でもご連絡はつきます。一人体制ではありますので、直ぐに連絡がつかない場合もございます。その点はご了承ください。

[文責：事務局]

10月・11月行事予定

10月7日：理事会※

10月9日～10日：第23回障害者問題全国交流会
in 青森☆ 締め切りました。

10月17日：県例会★(宇大インターシップ体験談)

10月30日：関東甲信越ブロック支部著交流会
(新都心ビジネス交流プラザ4F)

※は該当者のみ、☆は申込された方のみ、★はどなたでもOK、◎は全国行事。詳細はチラシまたはe-doyu、HP <https://www.tochigi.doyu.jp/> を御覧ください

11月11日：理事会※

11月17日：第50回中小企業憲章・条例推進本部
会議と政策委員会の合同会議

11月17日：県南支部例会★(内容は未定)★

11月20日～21日：第53回 青年経営者会 in 香川

11月21日：栃木県中小企業家同友会2025経営
フォーラム★

栃木県総合文化センター 18:00～
「わからない」からはじまる「ひと」の育ち
合い～学び合う文化をすべての組織に～
都留文科大学教養学部 学校教育学科
古屋和久教授

今後の予定 12月9日 理事会※